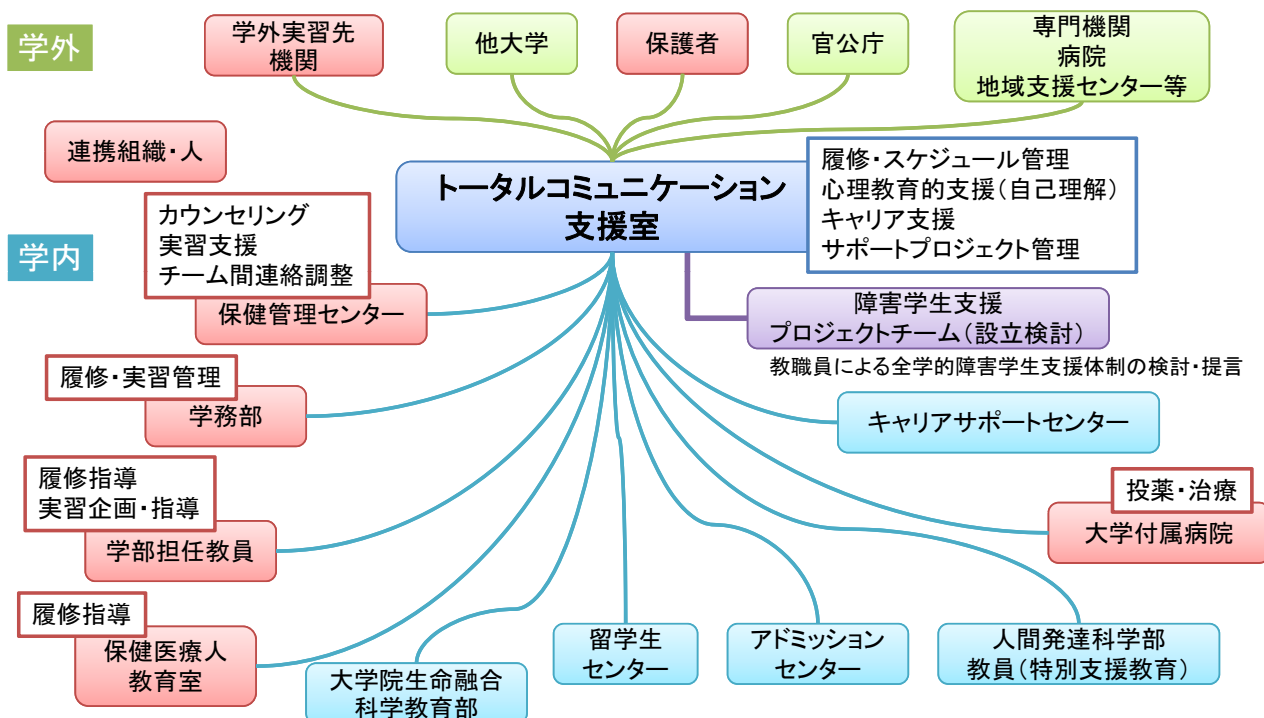


トータルコミュニケーション支援の特長(1)

学内外組織との連携によるサポートチーム形成

発達障害学生(理系)Aさん(ADHD診断あり、高機能ASD疑い)のサポート事例



Aさんの支援の実際: 指導教員、保健管理センターとの連携

<気分や衝動性への対処と修学の問題>

□ 困難さに焦点を当てた支援

- ✓ 課題: 体調や気分の波があって授業に出られない。
- ✓ 願い: 自己コントロールしながら授業や実習に臨みたい。
- ✓ 方法: スケジュールを調整しながら気分の揺れを最小限にする。

□ 心理教育的サポート

- ✓ 振り返り: 体調や気分の不調がどのようなときに起きるか振り返り、状況を客観的に把握する。
- ✓ 自己表現: 自分の体調と気持ちのずれを言葉に表す。
- ✓ 自己決定: スケジュールを調整しながら取舍選択する。
- ✓ 自己権利擁護スキル(Self-advocacy): 自分の体調や気分の不調を適切な表現で伝える。

トータルコミュニケーション支援の特長(2)

SNS(ICT技術)の活用による「オフ」と「オン」の相乗効果

- 学生サポートの質と量の両方を向上させることができる。
 - ✓ 学生は、日々の活動から浮かび上がってきた思いを日記に書いて支援者に伝えることができる。
 - ✓ 学生は、他のユーザーから日記に対する援助的なコメントをもらうことが期待できる。
 - ✓ 支援者は、学生が日頃思ったことが書き込まれた日記によって、面談で話題にすべきことを支援者が事前に把握することができる。
 - ✓ 学生は、面談では話せなかったことを後日伝えることができる。
- 富山大学PSNSのコミュニティ機能を活用して、サポートチーム内での効果的・効率的な情報共有を行える。
 - どこからでもアクセスできて、かつセキュリティが確保された「学生カルテ」の作成が、教職員なら誰でも簡単に作成できる。
 - ✓ サポートチームメンバーの情報共有の負担を軽減する。
 - ✓ 途中からサポートチームに入ったメンバーもすぐに支援の流れを把握することができる。
 - ✓ 「オン(PSNS)」で事実ベースの報告を済ませておくことで、「オフ(対面)」の打ち合わせでは、支援の原点に立ち返った議論に集中することが可能になる。

支援ニーズの総合的把握(1)

1. 本人との面接

①「語り」を通じて把握できること

特性・認知の特徴・人への態度

②「行動」を通じて把握できること

話し方・身振り・会話の仕方・表情

③「学習」を通じて把握できること

ノート・レポート・文字の形・履修状況・実習

グループ活動・ゼミ・卒論(修論)

④「プライベートの過ごし方」を通じて把握できること

自由な時間の過ごし方・趣味・アルバイト・おしゃれ

支援ニーズの総合的把握(2)

2. 関係者との情報交換から

- ① どんな場面でどのようなことがあり、どうなったかという具体的な経過と状況
- ② 問題が起こる場面の頻度
- ③ 通常(問題が起こらない時)の本人の様子
- ④ 関係者として何に困っているか？
- ⑤ 関係者が問題に対して上手く対処できたときのエピソード
- ⑥ 誰と連携できたらよいと考えているか？

発達障害学生への支援事例

事例B: 理系学部2年・女子学生

- 入学直後に保健管理センターへ自主来談
- 毎日、保健管理センターで窓口対応を行う。
- カウンセラー(非常勤)による定期面接
- 6月にカウンセラーからトータルコミュニケーション支援室に相談があり、面接を行う
- コミュニケーションの困難さを訴えたため、支援室による修学支援を提案する(2008年度後期から実施)

Bさんの語り

<観察と聞き取りによるアセスメント>

- 人の顔が見られない
- 私の周りには人が集まらない
- 仲良くするのは面倒。うまくできないから。そういうのが駄目だってずっと怒られてきた。だから友達ができないと言われた。ずっとひとりぼっち(泣)
- 地図帳、時刻表、電車、山がすき

支援を開始するに当たって

- 支援室と保健管理センターでケース会を行う
- 実験(グループ活動)やレポートについて内容を整理しながら対応策を一緒に考える
- 好きなこと、興味関心のあることを話題にして、リラックスしたコミュニケーションを体験する
- オンラインサポートにつなげる
 - 夢談義のトピック・フォトアルバム・小旅行日記

修学支援サポートチームのコミュニティ開設

富山大学 PSNS
Psycho-Social Networking Service

メンバー検索 | コミュニティ検索 | レビュー検索

マイホーム | 友達を誘う | 最新日記 | ランキング | 設定変更 | ログアウト

コミュニティトップ | 掲示板 | おすすめレビュー | コミュニティに参加 | マイフレンドに紹介 | コミュニティを退会

SEARCH | コミュニティ内 | 検索



修学支援サポートチーム

コミュニティメンバー

No image |  | 

よっしー (62) | ゆきみさん (2)

- 全てを見る(3人)
- 参加者にメッセージを送る
- メンバー管理

| コミュニティ | |
|-------------------|--|
| コミュニティ名 | 修学支援サポートチーム |
| 開設日 | 2008年08月06日 |
| 管理者 | よっしー |
| カテゴリ | 修学・生活支援 |
| メンバー数 | 3人 |
| 参加条件と公開範囲 | 管理者の承認が必要(非公開) |
| コミュニティ説明文 | トータルコミュニケーション支援室でサポートしている学生さん()の修学支援のために開設された、サポートチームメンバー限定のコミュニティです。メンバー以外の方で、当コミュニティでどのようなサポートが行われているかに関心をお持ちの方は、下記の連絡先までお問い合わせください。 吉永(よしなが): tyoshina@ctg.u-toyama.ac.jp |
| コミュニティ掲示板 | <ul style="list-style-type: none">> 11月06日... > 09月09日...  <ul style="list-style-type: none">もっと読むトピックを作成イベントを作成コミュニティ設定変更 |
| コミュニティ書き込みを携帯メールで | <input type="radio"/> 受け取る <input checked="" type="radio"/> 受け取らない |

本人が困っていること(1)

- 初めて行う実験は手順が想像できず、指示だけでは覚えられない。一生懸命に聞いても、どうしてもどこか抜けている。
- 疲れている時はぼうーっとしているが、考え事をしているときもある。集中力が切れて嫌になったときに、家に帰って何しようかなとか、夢を思い出したりしている。
- 実験の時は憂鬱。一人で黙々とやっている方が楽しい。
- とにかく予習を一生懸命している。
- 前期の後半は、薬品が手にかかってしまったこともあって、いろいろ嫌になっていたことが一気に恐怖になってしまった。前期が終わってからは気にならなくなった。

確認しないと不安(不安が増大)

- 08/09/05 17:59 さっき実験のレポートをメールで出したのですが届いているかどうか、ちゃんと添付されているかどうか心配です。締め切りは今日の18時なのです。
- (西村)同日20:27 大丈夫だと思いますが、もし心配なら「届いたかどうか心配です」というメールを出してみてもいいかがですか？
- 08/09/09 15:48 メールを書いた後に、先生からGet your report. という内容の返信が来ました。これはレポートがちゃんと届いたと考えてもいいのでしょうか？
- (吉永)同日16:07 はい。そのように考えてよいです。安心してください。

本人が困っていること(2)

- グループ(名前順)で実験をするときに、うまくその中に入っていけない。
- 話すチャンスがあっても話が延びない。話せそうな人がいてもその人達が話をしている中に入れない。自分だけ仲間はずれにされているようで悲しい。
- なぜ私は話せない？なぜ嫌われているの？あの人達はなぜ話をする人がいるの？こういう愚痴を言いたくなる。

グループに入ることができず苦しくなったとき、以下のメモを書いてその場をやり過ごした

- 何が問題か？誰かと一緒に作業することは問題ではない。ただ、ぎくしゃくしたような微妙な空気が嫌だ。その空気の中で自分が他人に迷惑をかけていると思うのがとてもつらい。
- 仲良さそうな人を見るのがつらい。自分が悲しい。それを見るたびに自分ではこんなふうになれないと思い悲観する。そういう人の話を聞くと自分だけ取り残された気分になる。
- 他人に対して失望していないし、嫌悪感や憎しみはない。ただし、自分に対してはそれだ。昔と違って表立ったいじめはなく、昔よりも状況はいいはずだが、このままではいけないという焦りと何も変わらない自分と現状に失望している。

現在の支援の状況

- ① 修学支援サポートチームを拡大←学科教員を含む
- ② 本人が困っている実習支援を中心に進める
- ③ 本人の了解を得ること、実習に向けてのサポートを行うことを通して、自身の特性認知につなげる
- ④ コミュニケーションの指導と自己理解に向けてのカウンセリングを行う(心理教育的アプローチ)
- ⑤ LD親の会青年部の小旅行にボランティアとして参加

富山大学PSNSの日記より

- 今回のグループ分けに関してはうまくいったと思います。
- しかし、くじ引きは相手との関係をうまくいくようにするという問題の完全な解決方法ではないと思います。
- 結局は自分が決められたグループの中でどのようにすべきかが問題になっていると思います。

日記に対する支援室相談員からのコメント

- (吉永) 課題を解決したら、次の課題が出てきたという感じですね。それはきっと、一步前進しているのだと思います。「次の一手」を一緒に考えていきましょうね。
- (西村) くじ引き効果を評価し、何がよかったのかを振り返り、何が課題として残っているかを発見することができましたね。一人の方が気楽だけど、そんなんじゃ社会に出たときに困るだろうと思うことは、みんな共通する悩みかもしれません。今回はあなたの言うようにうまくいきましたね。一つ一つうまくやれることを積み重ねていきましょう。

電車・一人旅についての話題(3月中旬)

- ☺ 実は、今月中に1人で旅行に行く計画を立ててますが、あとでここに書き込んでいいですか？
- ◇ (吉永) 是非書き込んでください！お願いします。
- ☺ 旅行の話ですが、電車にのって福井か能登か新潟へ行ってその私鉄線にのってみようと思っています。
福武線、勝山永平寺線、三国芦原線、七尾線、ほくほく線のどれかに乗ろうと思っています。どれがいいのでしょうか？
- ◇ (桶谷) 旅の計画！！いいですねー！迷われている私鉄線はどれも乗ったことがないので、旅日記が楽しみです。
- ◇ (西村) 一人旅は私も大学生の時にしたことがあります。私は仏像が好きなので、京都のお寺巡りに行ってきました。
Bさんの一人旅は、どこがいいですかね…。勝山永平寺線、三国芦原線に興味を持ちました。レポートしてくださいね！
- ◇ (吉永) 私は永平寺線に興味があります！車で線路沿いを通っただけですが、それでもわくわくしました。

富山大学PSNSの効果 ＜視覚優位認知特性を利用した支援＞

- 視覚化されたテキスト情報によって理解が促進される。
- 書き込まれた情報が継次的に表示されることによって、順序立てた情報記憶ができる。
- 非言語的コミュニケーションが反映されないので、やりとりされる情報が、他の人たちとほぼ同量同質で提供される。
- 何度も表現した内容を確認することができる。
- 自分の思いをテキスト化し、確認することで、時間はかかるがぴったり合った言葉を探しだすことができる。

富山大学PSNSの効果 ＜他者との関係性を創る場の提供＞

- PSNSは暗黙的なコンテキストが意味をなさないので、場の雰囲気を読めないことでの不都合があまりない。
- 他の人々のやりとりを眺めることで、適切なコミュニケーションスタイルを学ぶことができる。
- PSNS上では、会話のタイミングを図ることなく中に入ることができる。
- コミュニティや日記(全体に公開)は共同注視(三項関係)の場として機能する。同じもの(事)を共有し、共感しあう体験を、安心できる関係性の中で展開することができる
- 同じ趣味や指向性のある人が簡単に見つかり、好きなテーマで話をするすることで、その人との仲間意識が得られる。

就職活動支援を例に～支援者の心構え

□ 困難さに焦点を当てた支援: 支援者も考える!

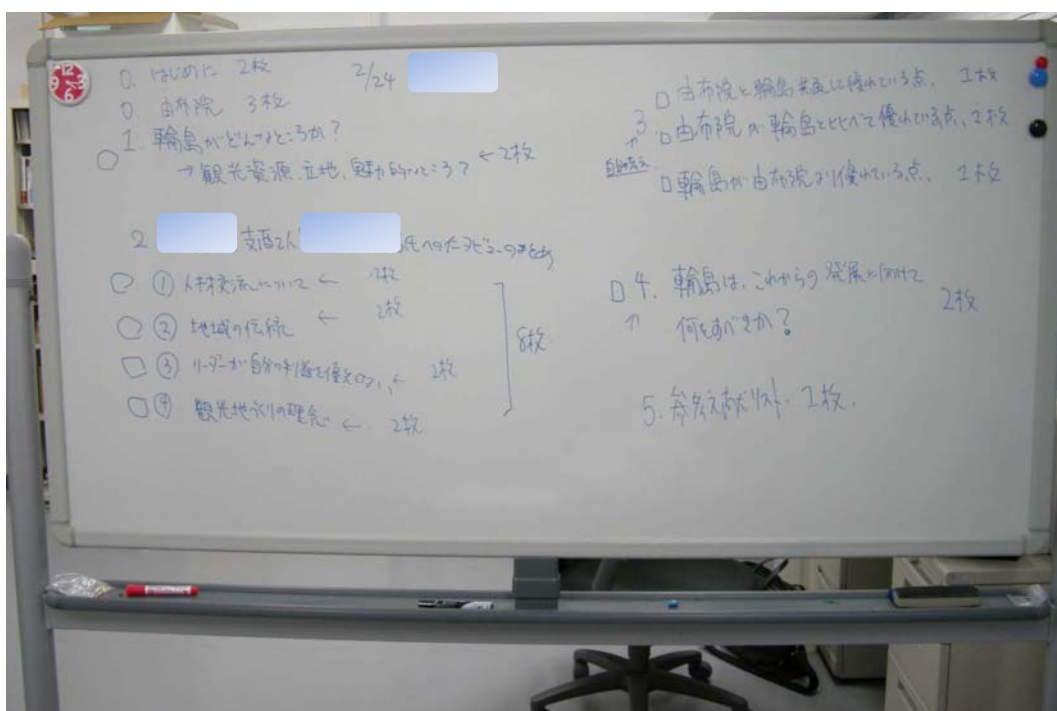
- ✓ 本人のペースに合わせる: 大抵は非常にゆっくり
- ✓ 一緒に集中的に作業に向き合う: 2~3時間/1面談あたり
 - 履歴書をどのように書くか一緒に考える。履歴書添削は最後の作業工程
 - 自己PRと志望動機の出出は本人にとって非常に難しい作業
 - 目の前で会社やハローワークに電話してもらい、就活を進めていく。
- ✓ 面接のシミュレーションと面接後の振り返りをする。

□ 心理教育的サポート: 本人の特性への肯定的関心

- ✓ 本人の自己否定感をまず受容する。
- ✓ 本人の持論をなるべく感情的に受け止めず、論理的に理解し(楽しみ)、その上で一般常識との「ずれ」を論理的に説明する。
- ✓ 本人が心地よく感じる内的世界を尊重し、それが維持できる方法の1つの選択肢として就職を考えてもらう。
 - 「仕事で自己実現を図るのか? それとも趣味に生きるために必要なお金を得るのか? は、人それぞれである。」等の語りの場を作る。

卒業論文作成支援事例

卒業論文を質的に分割→構成支援



トータルコミュニケーション支援推進上の課題

□ 学生支援の「場」のマネジメント(対話と実践)をどう改善する？

- ✓ 全学的な体制づくりの必要性。直接対応する教職員への啓発と、専門家と非専門家間の関係の在り方
- ✓ 支援目的・プロセスの共有を兼ねた「学生カルテ」をPSNS上のコミュニティで展開し、適切な範囲での情報の共有を図る。
- ✓ 大目標(ポリシー)とそれを達成するための小目標(日々のタスクに直結)の整合性を常に検証する
- ✓ 学生ピア・サポーターの実践能力の開発

□ 合理的な配慮とは？

- ✓ 本人の努力に見合った成果が出るための環境づくりを目的とした配慮
- ✓ 過剰な配慮の危惧
- ✓ 本人の「支援慣れ」を招き、自助努力を阻害することのないように行う

□ 自己理解・自己表現力を育成する心理教育的サポートとは？

□ 「入口(高校)」と「出口(地域社会・職場・大学院)」との適切な連携とは？

□ 「トータル・コミュニケーション・サポート」の理論的枠組みとは？

- ✓ 本人の語りに沿いつつ、表現を促進する「問いかけ」方法の検討
- ✓ 当事者だけではなく、支援者のサポート経験や語りの構造化も必要

高等学校における特別支援教育

1. 高等学校における相談事例
2. 発達障害生徒支援の先進校

事例C: 診断を受けないで高校進学

- 小学校の時に担任からLDではないかと言われたが、担任が替わると個性だと言われる
- 小児科を受診するが「異常なし」
- 児童相談所では、母子関係の問題といわれ、カウンセリングを勧められる
- 本人がカウンセリングよりも部活に参加することを希望し通所せず
- 知能検査では高得点

Cさんの経過

- 中学校は非常に荒れていていじめが頻発していた
- 本人は登校したいと思っているが、被害に遭うのではないかという不安が強く、身体を硬くして人を寄せつけない態度をとる
- 対人的な不安感が強い
- 保健室登校を勧められたが、本人が嫌がる
- ほとんど出席しないまま卒業し、高等学校に進学する

Cさんの高校生活

- 学年でトップの成績
- 漢字、英語検定で2級
- 現代国語(読解、主人公の気持ち)が苦手
- 数学・物理が得意
- 人間関係がうまくいかない
- 友人をほしがすが、できても長続きしない
- 態度が幼い(大げさに泣く・痛がる)
- 「お母さんが大好きだという気持ちを表した」と言い、背後から身体をぎゅっと抱きしめる
- 父親からの叱咤激励が日常的に行われる

Cさんの経過

- 対人関係面での混乱が多くなる
 - 同じような状況で不安感が強くなり、自己防衛のために相手を攻撃してしまう
 - 学校は自宅待機を提案するが、本人は納得しない
 - 別室を準備して、不安になったときに利用する
 - 大学の理系学部合格する
- ↓
- ⊖ 自分の特性を認識しないまま
 - ⊖ 家族の理解が得られないまま

モデル校で行われている 高等学校での取り組みについて

<聞き取り調査対象校>

□ 東京学芸大学附属高等学校

概要: 全日制、普通科

生徒数約1000人

ほぼ全員が大学進学

□ 滋賀県立日野高等学校

概要: 全日制、総合学科(単位制)

生徒数約500人

短大・大学進学率は約35%

東京学芸大付属高等学校の取り組み(1)

□ 支援体制(平成19年度より開始)

- ✓ 特別支援委員会(管理職を含まない12名で構成)

□ 支援の対象

- ✓ 発達障害に限定せず、困難を抱えたすべての生徒を対象
- ✓ 1年目: 月3日以上の欠席者
2年目: GoGoのお茶会で観察
- ✓ AQの項目を用いた自閉症スペクトラムに関する実態調査
: 行動傾向を質問紙によって調査

□ 校内外への理解・啓発方法

- ✓ 教員、生徒、保護者への講演会の実施
- ✓ 月1回の定例会で支援体制の定着を図った

東京学芸大付属高等学校の取り組み(2)

□ 支援内容

- ✓ 生活・心理サポート
 - GoGoのお茶会
 - 気軽に相談できる場を提供
 - GoGoのお茶会mini
 - 大学の教育心理専攻の学生と話をする場を提供
- ✓ 学習サポート: 評価のための考え方を検討
 - Accommodation(方法の支援)
 - Adaptation(評価の支援)
- ✓ 養護教諭を含むチーム支援
 - 保険室内でのピアグループ
 - 助けられる側から助ける側へ
 - 専門(教育)と専門(医療)の橋渡し

滋賀県立日野高等学校の取り組み(1)

□ 支援体制(平成17年度より開始)

- ✓ 「人権健康委員会」と命名(管理職を含む全11名で構成)

□ 支援の対象

- ✓ 特別支援教育を「特別な教育」ではなく「教育の原点」と捉え、困難の有無に関わらず全生徒を対象
- ✓ 全職員(事務他も含む)に「気になる生徒の調査」を実施
- ✓ 巡回相談員による授業観察や担任の面談による調査を実施

□ 校内外への理解・啓発方法

- ✓ コーディネーターによる職員会議等での研修会や特別支援教育だよりの発行(月1程度)
- ✓ 校外への職員の研修: 小、中学校の特別支援学級などの見学
- ✓ 教員・生徒・保護者向けの講演会を実施
- ✓ 巡回相談員を含めた事例検討会を行っている

滋賀県立日野高等学校の取り組み(2)

□ 支援内容

- ✓ 生活・心理サポート:学級担任、コーディネータが個別面談意識的な声かけ、保護者と連絡帳交換
- ✓ 学習サポート:板書、発問、視覚教材、要点整理プリントなどの工夫について職員間で情報交換

□ 入口問題への取り組み

- ✓ 必要のある生徒に関して、幼・小・中学校へ職員を派遣し高校入学前の情報を収集。

□ 出口問題への取り組み

- ✓ 特定の対象生徒に対し夏休みを利用して、アルバイトを通じた職業体験・指導を実施
- ✓ 教職員の研修としてハローワークや企業・事業所を視察
- ✓ 障害者職業センターや大学から講師を招き就労支援研修の実施
- ✓ 大学合格後の大学側担当者と高校の連携

各校の取り組みに対する評価

東京学芸大学附属高等学校

- AQ(50項目)から10項目を抜き出した簡易スクリーニング実施の結果、ニーズの大きさに気付いた。
- 保護者が「あなたは出来るはずだ」と本人を励まし続けて追い詰めるケースもあるように感じた。
- 保護者も含めたチームで柔軟にサポートすることが大切である。
- 進学する大学については、ニーズが生じる前に支援体制や窓口を確認しスムーズな支援継続に結び付けたい。
- 2年間の取り組みを経ても、まだ支援体制が構築できたとは言い難く、必要な場面で必要な教員が支援できる特別でない体制の構築が急がれる。

滋賀県立日野高等学校

- 高校段階での実態把握は困難な面が多く、幼小中学校との連携が重要である。
- 担任からの聞き取りをチェックリストではなく「氏名と気になる点」程度にしたことでその後の観察・面談に素早く移ることができた。
- 小中学校の見学は教職員の発達障害の理解に大いに役立った。
- 発達障害生徒に対しては保幼小中学校にわたり統一した様式の個別の支援計画書が必要だと思われる。
- 教職員の関わり方が生徒たちにも伝わり、自然発生的にピアサポートが成り立ってきた。(例:先輩に対する失礼な発言への対応など)



高等学校での配慮指導とは

- 入学決定後、早い段階で情報を収集する
- 入学に当たって、中学校の教員や保護者、本人も含めた移行支援会議を行う



- ① 個別ニーズの把握
- ② 特性に配慮したアコモデーション

- 個別的配慮の前のユニバーサルデザイン



- ① 全ての生徒が居心地の良い学校生活
- ② 全ての生徒がわかりやすい授業

アコモデーション

□ 特別な配慮・環境整備

他の子どもたちと同じスタートラインに立つために、すでにある環境や条件に対して、生徒の特性に合わせた「変化」をつける。学校の厚意ではなく、生徒の権利

- ① 物理的環境－視覚情報を精選する
- ② 授業の組み立て方－目的を明確に
- ③ テスト・課題・宿題－課題の出し方・問いの書き方
- ④ 教師の呈示のしかた－視覚情報・聴覚情報
- ⑤ 行動への配慮－聞く・話す・書く・考える・動く

< 専門分野＝教科教育 >

□ 教科の専門性と認知特性

□ 運動・音楽(楽器)・美術(絵画・造形)

□ 保健指導・健康教育



☆ 苦手な生徒への教科指導法の工夫

☆ 生徒が集中する時間を確保するための工夫

☆ 自分の身体や情緒に関するメタ認知を高める

☆ 教育相談や生徒指導で本人の語りを聞き、自己否定感を緩和する

<特別支援教育>

- 知識：生徒はどんな世界観を持っているのか
- 理解：何に対して、どのように困っているのか
- 観察眼：学校生活のあらゆる場面から、判断する材料を得る



- ◇ 生徒の非言語的なメッセージに耳を傾ける
- ◇ 困っている状況の改善のための手だてを話し合う
- ◇ 目標を立て、その方略を選択する
- ◇ 結果の評価をし、見直しをはかる

<心理学>

- 生徒の学び方や生活の様子を、本人の視点からイメージする
- 生徒の視点を自分のこととして感じる感性・感受性を持つ



- ☆ 本人の不安や困り感に共感し、自尊感情を高める教育相談を行う
- ☆ 保護者の困り感に沿って、解決に向かう道筋を探るための援助者となる

高等学校における支援システム＝発達援助

<ソフト面>

<ハード面>

- 教科教育や生徒指導、教育相談、進路指導に発達障害の視点を取り入れる
 - 学校が良い社会のモデルになるように学校環境を整備する（人・物）
 - 自己表現を保障する時間を取り、自己認識を促す（カウンセリング）
→自己肯定感を高めメタ認知を促進し、適切な進路指導につなげる
- 発達障害に関する理解
→ 教職員・保護者・生徒
 - コーディネーターの配置
→ 発達障害・マネジメント
 - 個別のサポートチーム形成
 - 個別の指導計画
 - 連携（家族・専門機関・大学）
 - 進学や就職などの進路先のリサーチ